

第 19 回教育プログラム
(JSE 学術プログラム)

シンポジウム「BPH に対する手術 基本手技からエキスパート手術まで」

演題名 「TUR-P の入院期間はまだまだ短くできる」

市立ひらかた病院 泌尿器科 和辻利和

私は、市立ひらかた病院に赴任して以来 14 年目になりますが、当初より経尿道的前立腺手術 (TUR-P) を 2 泊 3 日で行ってきました。

赴任前、当院の TUR-P の入院期間は 21 日でした。

当時の看護師さんは、手術当日入院で、術後、膀胱灌流なし、約 16 時間でカテーテルを抜去、膀胱洗浄なし、2 日目に退院というパスを見て疑心暗鬼になったと、今ではふりかえっています。なんでもないことを怖く感じたり、疑ったりすることを疑心暗鬼と言いますが、まさにその通りです。

術翌日の朝食前にカテーテルを抜去しても、なんの不具合も起きません。夜間に呼ばれることは 2 年に 1 回程度です。

特別な器具を使っているわけでもありません。皆さんが使用している電気メス、レゼクトスコープ、カテーテルと大差ないはずです。

切除量が少ないわけでもありません。50 g を超えて切除してもカテーテル留置時間は変わりません。

退院後 2 週目に外来受診を予定しますが、それまでに排尿状態が悪いため来院する患者さんは滅多にいません。何十人もこのパスで TUR-P を行い、バリエーションがないと看護師さんも「以前の入院期間は何だったの。」と言いました。

平成 21 年 3 月に NHK のクローズアップ現代で「“病院の実力“公開の波紋」と題して放送がありました。番組では TUR-P における DPC 病院の入院期間がパネルで示されました。

もっとも短かったのは当院の 3.1 日でした。それから 7 年あまり、平成 26 年度の DPC データを見ると、全国平均は 10 日あまりのところ、当院の入院期間は 3.2 日とまだ最短です。

私に言わせれば、術後 3 日目以降に医師や看護師が必要な処置やケアはありません。カテーテルは術翌日抜けます。TUR-P の入院期間はまだまだ短縮可能です。